

S F (ストリートファニチャー) の現況調査と開発研究

豊田修身・吉岡誠司

企画・デザイン部

Investigation and development of Street-Furniture

Osami TOYODA・Seiji YOSHIOKA

Planning & Design Division

要旨

身近な素材や地域の固有の技術を生かしたS F(ストリートファニチャー)を私たちの町や村に設置し、地域の景観を個性的で魅力あるものにしていくこと目的に本研究はスタートした。公共空間のデザインに対して広く関心を持ってもらう中から地域の産業を育てていこうという試みである。「通りの家具」を意味するストリートファニチャーは自分の好みで選ぶわけにはいかない公共の道具である。作る人(製造企業)、設置し維持管理する人(行政等)、使う人(生活者)がそれぞれの立場で問題意識を持って、提案していくことがより良いS Fを作ることにつながる。今年度は県下の市町村を対象にS Fに対する意識や関連施策についてアンケート調査して、それを基にS F設置の現況についてフィールド調査を行い、その結果を「S F研究報告解説集」と「S F研究報告写真集」にまとめ、作る人、設置する人、使う人へのデザイン提案を行った。

1. はじめに

本研究は昨年度、大分市と竹田市を対象にS Fを調査して現況を把握すると共に、各S Fについて主観評価法による評価を行った。その結果からS Fが抱えている課題とデザイン上の条件などを掴んだ。

今年度はその結果を踏まえ、S Fデザインのコンセンサスをつくるべく研究を組み立てた。特に「迷走する公共デザイン」とテレビで取り上げられたように、テーマパークのマスコットのなものが抜け出したような電話ボックスや公衆トイレが出現して、景観デザインに対して「理解」と「誤解」が共に進んでいることを大きな課題と考えた。(Fig. 1)



Fig. 1 デザインが誤解されている例

この「理解」と「誤解」の絡まった糸を少しづつでも

ほぐしていくことが、魅力的なS Fを作っていく上で避けて通れないプロセスと考え、調査を通して関係者とのコミュニケーションを図りながら、コンセンサス作りとデザイン提案につとめた。

2. 研究内容

2.1 研究のプロセス

研究はS Fデザインのコンセンサス作りという大きな課題を達成すべく次の3つのステップで組み立てた。

第1段階はアンケート調査。市町村のS F設置等の担当者に対してS Fに対する意識や関心を寄せる分野、関連の施策等を調査した。「ストリートファニチャーという言葉をご存じですか。」という問いかけで始まるアンケート用紙で調査を行った。

第2段階はフィールド調査。アンケート調査を基に各市町村がすでに設置し住民が関心を寄せているS Fについてフィールド調査を実施し、スライド写真に記録するとともにその反響等について調べた。

第3段階はコミュニケーションツールの作成。S Fを作る人、設置する人、使う人がS Fデザインについて共通の場でコミュニケーションし、またディスカッションできるよう、調査結果をまとめた「S F研究解説集」と「S F研究写真集」とを作成した。

2.2 アンケート調査

県下全市町村の景観デザインまたは街路整備等の担当者を対象に下記の4項目について郵送によるアンケート

調査を行った。

●調査方法：用紙による郵送質問、回答は郵送かFAX

●配付数：58通 回答数：46通 回答率：79%

問1. ストリートファニチャーという言葉を知っていましたか。

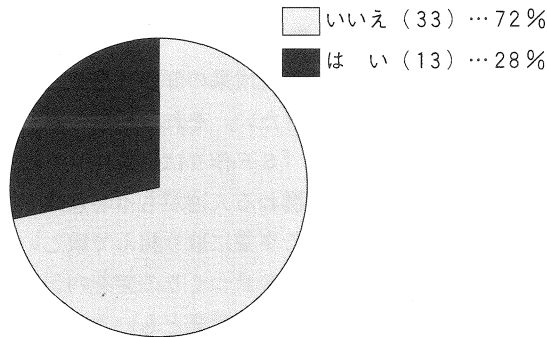


Fig. 2 問1の結果

問2. 貴市町村では、街路や景観を整備していく上でどの分野に重点を置かれていますか。特に重点を置いている分野に◎を1つ、やや重点をおいている分野に○を2つ記入して下さい。

<SFの分野>	◎か○
ベースファニチャー ーベンチ、灰皿、屑籠、バス停、電話ボックス等	
照明（ライティングシステム） ー街路灯、フットライト、ライトアップ等	
アメニティツール ーモニュメント、彫刻、噴水、公園遊具等	
舗道と樹木 ー木レンガ、マンホール、プランター、街路樹等	
サイン（広い意味の案内標識） ー記名サイン、誘導サイン、案内サイン等	
広告 ー商店看板、イベント広告用の幟等	
標識（交通標識等に限る） ー交通標識、道路ミラー、信号機等	
上記分類以外のSF ー壁、塀、橋、煙突、ポケットパーク、駅舎等	

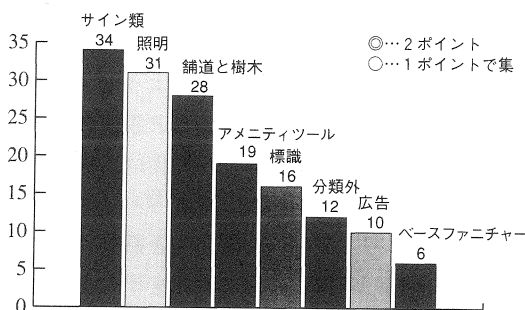


Fig. 3 問2の結果

問3. 貴市町村内で自慢できるSFやユニークなSFがありましたら、どんなものかご記入願います。（特徴欄は略して掲載）

名称等	市長村名
サンサン通り	大分市
照明灯	別府市
街路樹（花木）	〃
駅前広場の噴水	日田市
駅前通りのモニュメント	〃
彫刻のあるまちづくり	佐伯市
石灰石案内板	津久見市
カリヨン	竹田市
音の調べ通り	宇佐市
橋	太田村
三六橋	山香町
発する風ーモニュメント	野津原町
観光案内板	弥生町
吉四六ポケットパーク	野津町
神楽モニュメント	清川村
502号ポケットパーク	緒方町
森本町通り（童話石像）	玖珠町
県道よう壁への壁画	前津江村
天の国プラザ	天瀬町
公営住宅レリーフ	安心院町

問4. 貴市町村で現在取り組んでいる街路整備等の事業がありましたら名称と概要をお願いします。（回答略）

以上の4つの質問の回答を整理すると次のようなことが見えてきた。まず、問1から行政の関係者でも3/4近い人がストリートファニチャーという言葉に馴染みがなかったということ。

問2では、回答してくれた人の多くが、街路整備等の担当をしており、その業務の中で「サイン」、「照明」、「舗道、樹木」等の仕事が増えているであろうことがわかる。

問3は、簡単に言えば「わが町が誇るSFは」という問いに対して、どんなものを紹介してもらえるかという最も聞きたかった質問である。選んだSFやその特徴の説明から、回答してくれた人たちのデザイン意識が浮かび上がってきた。予想していたことではあったが、目を引くような色、形や話題性のあるものを作ることがデザインと考えていると窺えるものが約半数含まれていた。

問4は17市町村から23事業について回答があり、街路整備の事業が多数行われていることがわかった。

2.3 フィールド調査

アンケート調査の問3で回答のあった「自慢できるSFは」のすべてのデザインを調べて、コンセプトを聞いた。調査は22の市町村役場を訪ねて担当者から紹介のあったSFの事業等の概要を聞き、担当者と共に現地を訪ねてスライド写真に収めた。(Fig. 4)

調査をしながら、SFを題材にしてわかりやすいデザインの話を担当者の方にさせてもらった。少しずつデザインの理解が広まっていることを実感しているが、市町村等の担当の方は身近に専門の人がいるわけでもなく、孤軍奮闘で仕事をしている人も多い。首長を含めた行政をリードする人々のデザインへの理解、そして、担当者が横のネットワークを作って情報交換や研究ができる体制作りが今後の課題であろう。

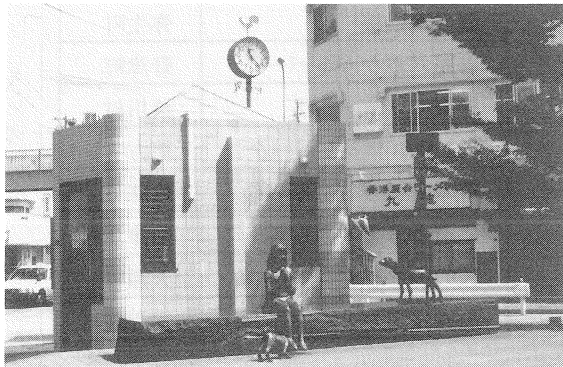


Fig. 4 彫刻のあるまちづくり／佐伯市

2.4 コミュニケーションツールの作成

平成7年度にスタートしたSF研究は県内外のSF設置の現況を約2000枚のスライドフィルムに記録した。SFの製造や設置に携わる人たち、また生活者として利用する人たちに活用してもらいたいと考えている。そのきっかけ作りとして写真を掲載した「SF研究解説集」と「SF研究写真集」を作成した。(Fig. 6)

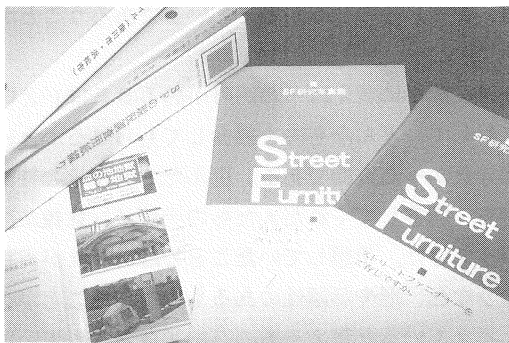


Fig. 6 「SF研究解説集」と「SF研究写真集」

SFデザインは人によって善し悪しの評価が異なるが、皆で意見や提案を上げてより良いものを作り上げていくプロセスが重要である。そこで、まず、SFを話題にしたコミュニケーションを拡げていって欲しいと考えて作った冊子である。

3. 考察

「SF研究解説集」に研究成果の詳細は掲載したが、考察として一つ記しておきたい。それは地域の素材、地域の技術を生かせば、「SF作りは産業作り」につながることをSF設置に携わる人達をもっと意識して、今後のSF設置に関連する事業に取り組んで欲しいということである。県内にもSFづくりの芽を内包した企業がいくつかあるので、SF産業ともいべきものの育成に我々も力を傾けていきたい。そのためにも、「迷走する公共デザイン」といわれるようなデザインへの誤解を早くあらためていかなければならないことを痛感している。

また、広く成果を討議する場が必要と考えて、客員研究員である九州芸術工科大学の佐藤優先生にアドバイス役をお願いして市町村の担当者を対象とした研修会を2回開催した。1回目は「SFから見たまちづくり」というテーマで、8市町村の事例を紹介しながら、SFの果たす役割を認識してもらいながらデザインの現状について意見を交わした。2回目は「サインづくりは町づくり」と題して、別府市のサインについてフィールド研究した。今まであまり気にかけていなかったSFが地域の景観を作り、町を創っていることを事例を通して再認識してもらった。参加者には好評で、研究成果の普及になったようである。

4. おわりに

3カ年の計画でスタートした本研究は、平成8年度に大分市と竹田市のSFを重点的に調査分析することによって限られた地域のSFの現況を深く掘り下げて見た。そして、二年目の今年度は県下の全市町村を対象として広く調査を進め、現況を幅広く把握することにつとめた。2カ年で現況調査という目的はほぼ達成されたので、今後は、解説集に記したようなSFデザインの個々の問題点の解決のためのSF設置のガイドラインを記したデザインマニュアルの作成が望まれる。

最後に、本研究の全般にわたってアドバイスをいただいた九州芸術工科大学の佐藤優先生と調査に協力いただいた県下市町村の担当の方にお礼を申し上げます。